



平成22年8月30日
内閣府（防災担当）

平成22年防災功労者防災担当大臣表彰式について

標記式典を下記のとおり執り行うのでお知らせします。

記

- 日 時 平成22年9月3日（金）
18時00分～
- 場 所 東京タワー（タワーホールA）
- 出席者 防災担当大臣 ほか

* 式典内容はカメラ撮り可

【本件問い合わせ先】

内閣府政策統括官（防災担当）付

参事官（総括担当）付 井上、宮崎、内山

電話：03-3501-5408（直） FAX：03-3503-5690

平成22年防災功労者防災担当大臣表彰式

- 1 日 時 平成22年9月3日(金)
18:00 ~ 18:30
- 2 場 所 東京タワー(タワーホールA)
- 3 表彰式次第
- (開 式) 18:00
- (1) 防災担当大臣あいさつ
- (2) 防災担当大臣表彰状授与
- (3) 受賞者代表謝辞
- (閉 式) 18:20
- 4 記念写真撮影 18:25
- (終 了) 18:30

平成22年防災功労者防災担当大臣表彰受賞者名簿

○ 個人

〔防災体制の整備〕

| | |
|---------|--------|
| 秋 草 直 之 | (東京都) |
| 田 中 淳 | (東京都) |
| 濱 田 政 則 | (神奈川県) |
| 武 田 義 彦 | (静岡県) |
| 石 井 昇 | (兵庫県) |
| 衣 笠 達 也 | (兵庫県) |

〔防災思想の普及〕

| | |
|-----------|-------|
| 池 上 三 喜 子 | (東京都) |
| 南 部 美 智 代 | (三重県) |

○ 団 体

〔災害時の防災活動〕

| | |
|------------------|-------|
| 社会福祉法人防府市社会福祉協議会 | (山口県) |
| 社会福祉法人山口市社会福祉協議会 | (山口県) |

〔防災体制の整備〕

| | |
|--------------------|-------|
| 桶川市自主防災組織連絡協議会 | (埼玉県) |
| 四日市市港地区自主防災組織連絡協議会 | (三重県) |
| 京極自主防災会 | (京都府) |
| 城西校区第三町内自主防災クラブ | (熊本県) |

〔防災思想の普及〕

| | |
|----------------------------|-------|
| 横手市増田町火災予防組合 | (秋田県) |
| 災害救援ボランティア推進委員会千葉市SLネットワーク | (千葉県) |
| 多治見市笠原町災害救援ボランティア | (岐阜県) |
| 日野ボランティア・ネットワーク | (鳥取県) |

以上 8個人 10団体

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 内 閣 府 |
| 氏 名 | あきくさ なおゆき 秋 草 直 之 |
| 住 所 | 東京都港区 |
| 職 業 | 富士通株式会社相談役 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、経済界の有識者としての活動のみならず、阪神・淡路大震災での復興活動の経験を基に、防災行政へ有用な提言を行うなど、その活動は非常に幅広いものである。</p> <p>また、中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」においては、座長として報告書の取りまとめに尽力するとともに、中央防災会議「首都直下地震対策専門調査会」委員などを歴任し、防災体制の整備に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 内 閣 府 |
| 氏 名 | た な か あ つ し 田 中 淳 |
| 住 所 | 東京都杉並区 |
| 職 業 | 東京大学大学院教授 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、災害情報の第一人者として、災害情報提供や避難行動の分野において優れた業績を残しており、防災行政への有用な提言を行うなど、その活動は非常に幅広いものである。</p> <p>研究活動においては、地震情報の利活用的高度化や災害情報提供のユニバーサル化、首都直下地震による被害の解明といったテーマで、その成果は学術的にも極めてレベルの高いものである。</p> <p>また、日本災害情報学会理事などの要職を務めるなど、学会活動においても同氏の功績は極めて大きく、本分野の進歩に大きく貢献した。</p> <p>さらに、「火山情報等に対応した火山防災対策検討会」座長をはじめ、中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」委員などを歴任し、災害情報に関する幅広い知見と、深い考察に裏打ちされた提言を数多く行うなど、防災体制の整備に多大に貢献した。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 内 閣 府 |
| 氏 名 | は ま だ ま さ の り 濱 田 政 則 |
| 住 所 | 神奈川県横浜市 |
| 職 業 | 早稲田大学教授 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、地震防災工学、地盤工学の第一人者として、液状化地盤や地表地震断層に対する土木構造物の耐震性向上に関する分野において優れた業績を残しており、防災行政への有用な提言を行うなど、その活動は非常に幅広いものである。</p> <p>また、土木学会会長、地域安全学会会長、日本地震工学会会長、日本学術会議土木工学・建築学委員会委員長などの要職を務めるなど、学会活動においても同氏の功績は極めて大きく、大規模地震災害軽減に関し、学協会横断的な研究を行うなど本分野の進歩に大きく貢献した。</p> <p>さらに、中央防災会議「東海地震に関する専門調査会」委員、中央防災会議「首都直下地震対策専門調査会」委員などを歴任し、地震防災工学に関する幅広い知見と、深い考察に裏打ちされた提言を数多く行うなど、防災体制の整備に多大に貢献した。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 静 岡 県 知 事 |
| 氏 名 | た け だ よ し ひ こ 武 田 義 彦 |
| 住 所 | 静岡県御殿場市 |
| 職 業 | 無職 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、平成16年度から平成20年度まで静岡県自主防災活動推進委員会委員として、地域の防災組織活性化方策について有用な意見を述べるとともに、県内各地において講演会の講師等を務め、県民の防災意識の向上に尽力した。特に平成19年度には同委員会副委員長及び「自主防災」新聞編集委員長、平成20年度は委員長として「自主防災組織の活性化」、「家庭内の地震防災対策の啓発」及び「災害時要援護者の支援」についての方策を取りまとめ、県に提言するなど、地域の防災力の向上について多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|---|
| 推 薦 者 | 兵 庫 県 知 事 |
| 氏 名 | い し い の ぼ る 石 井 昇 |
| 住 所 | 兵庫県明石市 |
| 職 業 | 神戸大学大学院教授 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、災害医療、救急医療の専門家であり、平成13年から現在まで兵庫県防災会議大規模事故災害対策専門委員会副委員長として、県地域防災計画大規模事故災害対策計画を策定した。</p> <p>また、平成15年から現在まで救急業務高度化協議会委員長として、全県的なメディカルコントロール体制について協議、調整に尽力するとともに、平成13年から平成14年には兵庫県立災害医療センター（仮称）整備推進委員会委員として、災害医療体制の整備に尽力するなど、防災体制の構築等に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [原子力防災]

| | |
|-----------|---|
| 推 薦 者 | 内 閣 府 |
| 氏 名 | きぬがさ たつや 衣 笠 達 也 |
| 住 所 | 兵庫県芦屋市 |
| 職 業 | 財団法人原子力安全研究協会放射線災害医療研究所研究参与 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、緊急時被ばく医療の専門家として、その豊富な知見と経験を活かして、平成13年7月から現在まで、原子力安全委員会に設置された原子力施設等防災専門部会被ばく医療分科会の専門委員を務めるとともに、平成19年7月から平成20年4月まで、同分科会の下部組織として設置された緊急被ばく医療のあり方に関する検討会の専門委員として、「緊急被ばく医療のあり方について」の見直しに尽力するなど、数々の報告書の取りまとめに際し、多大な貢献をした。</p> <p>また、緊急被ばく医療における診断と治療の実際を、核テロに対応した医療をも視野に入れて、原子力災害への医療体制のあり方を示した「緊急被ばく医療テキスト」の発行に尽力するなど、原子力防災の分野において多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 内 閣 府 |
| 氏 名 | い け が み み き こ 池 上 三 喜 子 |
| 住 所 | 東京都板橋区 |
| 職 業 | 財団法人市民防災研究所理事 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、「防災ボランティア活動検討会」に有識者として、防災行政に有用な提言を行うなど、防災ボランティア活動の環境整備に貢献した。</p> <p>また、市民防災活動、防災ボランティア活動及び自主防災組織育成等をテーマに、シンポジウム等、防災に関する催事の講師等を数多く務め、災害被害の軽減のための国民運動の推進に尽力した。</p> <p>さらに、中央防災会議「災害被害を軽減する国民運動の推進に関する専門調査会」委員をはじめ、東京都「火災予防審議会」委員などを歴任し、防災ボランティア活動等に関する幅広い知見と深い考察に裏打ちされた提言を数多く行うなど、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 三 重 県 知 事 |
| 氏 名 | な ん ぶ み ち よ 南 部 美 智 代 |
| 住 所 | 三重県鈴鹿市 |
| 職 業 | 特定非営利活動法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿理事 長 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同氏は、阪神・淡路大震災を契機に、災害ボランティア団体を設立し、日頃から、地域の防災啓発活動に深く関わりを持つだけでなく、防災意識は子どもの頃から刷り込むことが大切という考えから、子ども達を対象とした防災教育に尽力している。特に本年で12回目を数える防災子どもサミットは、当初参加した子ども達がリーダーとなり、次の子ども達を育成するというサイクルを確立させるなど、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 山 口 県 知 事 |
| 名 称 | 社会福祉法人防府市社会福祉協議会 |
| 所 在 地 | 山口県防府市 |
| 代 表 者 | に し む ら け ん 会 長 西 村 謙 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同団体は、平成21年7月21日に発生した豪雨災害において、「防府市・佐波川流域災害ボランティアセンター」を速やかに設置し、災害ボランティアの募集とともに、被災者のボランティア派遣ニーズの把握・マッチング、活動資機材の調達など、関係機関と連携しながら、ボランティアの派遣調整に尽力した。</p> <p>同センターでの約1か月の支援活動を通じて、636件、延べ6,883名が災害ボランティアとして派遣され、被災家屋の清掃や土砂・瓦礫の除去等の防災活動に従事するなど、被災地の復旧を図る上で多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

| | |
|-----------|---|
| 推 薦 者 | 山 口 県 知 事 |
| 名 称 | 社会福祉法人山口市社会福祉協議会 |
| 所 在 地 | 山口県山口市 |
| 代 表 者 | は ら ま さ か つ 会 長 原 昌 克 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同団体は、平成21年7月21日に発生した豪雨に際し、「山口市災害ボランティアセンター」を速やかに設置し、災害ボランティアの募集とともに、被災者のボランティア派遣ニーズの把握・マッチング、活動資機材の調達など、関係機関と連携しながら、ボランティアの派遣調整に尽力した。</p> <p>同センターでの約1か月の支援活動を通じて、49件、延べ1,165名が災害ボランティアとして派遣され、被災家屋の清掃や土砂・瓦礫の除去などの防災活動に従事するなど、被災地の復旧を図る上で多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 埼 玉 県 知 事 |
| 名 称 | 桶川市自主防災組織連絡協議会 |
| 所 在 地 | 埼玉県桶川市 |
| 代 表 者 | ふじさわ ひさお 会 長 藤 澤 久 男 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同連絡協議会は、平成2年の結成当初から年間事業計画を策定し、災害時に地域におけるリーダーとなる自主防災組織会長及び、次世代のリーダーを育成すべく、「県政出前講座」や「炊出し応援隊」等、外部講師を招いての研修等を数多く実施している。</p> <p>また、地域ごとで行われていた防災訓練を行政主体ではなく住民主体として合同で行うことにより、訓練規模の拡大や組織間での連携を強化するなど、地域の防災力向上に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|---|
| 推 薦 者 | 三 重 県 知 事 |
| 名 称 | 四日市市港地区自主防災組織連絡協議会 |
| 所 在 地 | 三重県四日市市 |
| 代 表 者 | お く む ら よ し た か 会 長 奥 村 吉 孝 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同連絡協議会は、災害時の被害状況を想定した自主防災体制づくりや、個人・家族の行動、避難所などの具体的かつ詳細なマニュアルを作成し、各戸に配布している。また、災害時要援護者には、福祉と防災を一体化した「港地区支え合いカード」を作成し、カードを基に家庭訪問を実施するなど、支援体制の強化に尽力している。</p> <p>四日市市港地区は、危険物を扱う施設が多く、沿岸部の埋立地という立地条件を踏まえ、事業所と連携して、合同防災訓練や図上訓練の実施及び個別課題について話し合う連携会議の開催等、地域の防災力の向上に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 京 都 府 知 事 |
| 名 称 | 京極自主防災会 |
| 所 在 地 | 京都府京都市 |
| 代 表 者 | やまぐち みちあき 会 長 山 口 道 昭 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同防災会は、自主防災部を編成し、体系的かつ組織的な防災活動体制を確立させ、すべての自主防災部において町内版の地域防災計画「身近な地域の市民防災行動計画」を策定し、防災訓練の検証結果を基に計画の見直しを行っている。</p> <p>また、会員である地域住民が費用を負担し、防災資器材の増強に努めるなど、自主的かつ積極的な基盤づくりが行われている。</p> <p>さらに、地域内には学生等によるボランティア団体「少年補導学生班」があり、そこに所属する若者に、自主防災リーダー研修等、各種講習を受講させ、若者によって防災訓練等の場で地域住民に対する熱心な指導が行われるなど、地域防災力の向上に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 熊 本 県 知 事 |
| 名 称 | 城西校区第三町内自主防災クラブ |
| 所 在 地 | 熊本県熊本市 |
| 代 表 者 | み や ざ き ま も る 会 長 宮 崎 守 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同クラブは、地域の地理的特性や住民の高齢化を考慮し、全住民が協力して防災訓練の実施及び防災に関する知識の修得のため研修会を実施する等、自主防災活動に尽力している。現在は災害時要援護者支援に力を入れており、状況に応じた支援が出来るよう、きめ細かい個別避難支援プランを作成している。</p> <p>また、町内の予算で防災資機材を計画的に購入し充実させ、避難計画、行動マニュアル等を毎年更新するなど、地域の防災力向上に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

| | |
|-----------|---|
| 推 薦 者 | 秋 田 県 知 事 |
| 名 称 | 横手市増田町火災予防組合 |
| 所 在 地 | 秋田県横手市 |
| 代 表 者 | つるかい みわこ 組 合 長 鶴 飼 美 和 子 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同組合は、炊き出し訓練や独自の防災研修の実施等、地域の婦人達を中心とした家庭からの防災思想の普及に尽力している。炊き出し訓練の際は火盆や災害時用の簡易な袋を使用するなど毎回工夫をするとともに、炊き出しにかかる時間を計測するなど不測の事態への対応に備えた研究を行っている。</p> <p>また、防災をテーマとしたパッチワークを製作する等、工夫をこらしたユニークな活動を展開することにより、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

| | |
|-----------|--|
| 推 薦 者 | 千 葉 県 知 事 |
| 名 称 | 災害救援ボランティア推進委員会千葉市SLネットワーク |
| 所 在 地 | 千葉県千葉市 |
| 代 表 者 | ふ か み は じ め 代 表 深 味 肇 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同団体は、千葉市内の町内自治会や自主防災組織を対象に、講習会や防災訓練の指導をボランティアで行っている一方、防災に関する展示会の開催、小中学生を対象とした防災教育の実施及び各種防災イベントの参加など、防災行政に積極的に協力するとともに、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

| | |
|-----------|---|
| 推 薦 者 | 岐 阜 県 知 事 |
| 名 称 | 多治見市笠原町災害救援ボランティア |
| 所 在 地 | 岐阜県多治見市 |
| 代 表 者 | わ か お こ う じ 代 表 若 尾 孔 次 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同団体は、災害時の水の重要性に着目し、笠原町に存在する井戸水及び湧水の水質検査を実施するとともに、井戸水等の所有者には緊急時の配水についての調整に尽力した。</p> <p>また、防災講習等に継続的に参加し、被災地への視察研修を実施することで最新の防災知識とノウハウを蓄積し、他地域での講座で講師を務め、共助の精神及びボランティアコーディネートの重要性を指導するなど、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

| | |
|-----------|---|
| 推 薦 者 | 全 国 社 会 福 祉 協 議 会 |
| 名 称 | 日野ボランティア・ネットワーク |
| 所 在 地 | 鳥取県日野郡日野町 |
| 代 表 者 | こたに ひろのり 代 表 小 谷 博 徳 |
| 功 績 の 概 要 | <p>同団体は、鳥取県西部地震を契機に、長期的な災害復興、被災後の地域づくり活動等の経験を県内外での研修会の講師等を務めるなど伝承活動を行う一方、全国で災害が発生した際には、被災者に寄り添った支援活動に尽力している。</p> <p>また被災者復興支援活動の延長として、ボランティアセンターの活動支援及び高齢者の見守り等、防災思想の普及に多大な貢献をした。</p> |